

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2870600430		
法人名	株式会社 ベストウェル		
事業所名	グリーンウェル花山		
所在地	兵庫県神戸市長田区花山町1丁目5-5		
自己評価作成日	平成26年6月23日	評価結果市町村受理日	平成26年9月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人 ライフ・デザイン研究所
所在地	兵庫県神戸市長田区菟乃町2-2-14
訪問調査日	平成26年6月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

他のグループホームより少人数で有り個別対応に力をいれており、特に生活リハ・園芸療法等の方に合った対応をさせていただいています。また、医療関係との連携に関しましてはも馴染みのある医療機関への受診の継続を推進しており、受診への付き添い、日々の状況の説明も職員が行っています。ご家族の希望により付き添っていただく事も可能です。ご家族への連絡も細かく行っており日々の様子などに関してはお手紙を面会に来られたとき等に手渡す事も行っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

①理念に基づく個別ケアの実践・・・理念のひとつ『入居者の幸福感とは何かを常に考える』を実践すべく、入居者の現況を踏まえ、画一的ではない利用者個々人の思いの暮らしとなるように支援している。外出行事を含め多くのレクリエーションの企画・実施(個別対応が基本)、入浴スタイルの多様化(個別浴、複数浴、外湯等)等を実施し、満足度の高い日常となっている。②医療面での充実・・・グループ法人が医療機関であり、日常の健康管理や緊急時の対応等安心感が強い。③地域交流・・・自治会との積極的な係わり(行事参加、避難訓練の合同開催等)、近隣住民が参加する夏祭りの開催やみなと神戸花火大会の花火が観覧できる屋上での納涼祭や園児とのふれあい、1F地域交流スペースの開放(地域包括支援センター主催の行事等の実施)等、地域の中で多様な局面で協同している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入職時のオリエンテーションなど説明し朝礼時なども理念について共有している。また事務所に理念を掲示し常に意識するよう促している。	「人間の尊厳を大切に」「心と心のふれあいを大切に」「適正で質の高い介護の提供」「入居者の幸福感とは何かを常に考える」を理念とし、入居者の現況・思いに寄り添いながら安心のある日々となるよう職員一同取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、自治会の行事に参加する様になっている。また、自治会主催の行事等に開催場所としてホームを開放している。	散歩・買い物時の近隣の方々との会話や自治会行事(昔遊びの会、花の寄せ植え等)への積極的参加、自治会との合同避難訓練、ボランティアの協力、幼稚園児との交流等、地域の中での生活が常態となるように努めている。	地域の社会資源として、今後も、地域密着型サービス理解と浸透への積極的な取り組みに期待をします。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	自治会の行事や自治会の会議に参加する事により認知症に関する情報を常に発信出来るようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	外出先などアドバイスをいただいている。	会議では事業所情報の一方的発信にとどまらず、地域の中での入居者の生活感(地域ボランティアの活用)や事業所の社会資源としての役割(1F交流スペース利用しての様々なイベントの実施)等を出席者で検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議や営業活動、小地域ネットワーク連絡会等をつづいて協力している。	区のGH連絡会や運営推進会議、1F交流スペースの開放及び利活用(介護教室の実施等)を通じて地域包括支援センターとは深く連携している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する情報提供や勉強会を通じて情報共有を行っている。	研修・勉強会を通じ、職員は「身体的拘束等の弊害」を充分理解し日々のケアにあたっている。「慣れ親しむ」と「あななあ」の違いを意識し、『言葉がけ』についても職員間で確認し合いながらすすめている。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する情報提供や勉強会を通じて防止につとめ、事例などの提供もしている。	入居者の尊厳を保つ(虐待防止)ことは当然のこととして周知徹底されている。また、それらを担保する意味でも職員の精神的ケアについても配慮し、コミュニケーション重視、個別面談の機会を重視している。	

自己	者 第	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する勉強会や権利擁護に関する資料の提供を行っている。	現在、権利擁護に関する制度の活用者はおられないが、研修・勉強会を通じ『制度概要の理解』及び制度活用が『認知症高齢者の支援の一方策として機能すること』を職員は共有できている。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	規則時は説明を行い、いつでも質問出来る状況である事をつたえる。	契約前に事業所見学、質疑応答を通じ、疑問・不安感がない状態を創り、契約関連書類を丁寧に説明することにより納得の上で生活がスタートできるよう努めている。また、重度化・終末期への対応方針についてもホームの方針を説明している。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しているが外部に公表する事は設けていない。	運営推進会議、家族会(懇親会を兼ねている)、来訪時、イベント参加時、電話、意見箱等の場面で意見・要望を聴き取る機会を設けている。挙がった意見や提案等については定例会議で検討し、日々のサービスに活かすようにしている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月ごとに職員会議をもうけて、それに基づき評価をおこなっている。	定例会議では、職員意見・提案を事前に聴き取り、会議の場で検討・決定するようにしており、また個別にアンケート及び個別面談(年2回)を実施し、より細やかに意見を収集し事業所運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	独自の評価制度を設けてそれに基づき評価をおこなっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・本社を中心とした教育部が勉強会を実施、スキルアップが出来る環境をもうけている。さらにホーム内での勉強会の実施、外部研修への参加の促進を行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・地域の医療、福祉関連施設の集まりに参加している。また同区内のグループホームの部会を立上げ、意見交換や勉強会の実施を積極的におこなっている。		

自己 者 第三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・ご本人が暮らしてこられた日常をできるだけ継続できるように配慮している。またご本人の話をお聞きし情報を収集する様努めている。		
16	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族との連絡は蜜にとるようにしている。そして日頃の様子をまとめた手紙を渡している。		
17	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入居後も利用できるサービスは、利用していただいている。また入居後利用していただけるサービスについても、情報を提供し利用できるように支援している。		
18	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人が今まで暮らしてこられた日常や生活歴をふまえ、出来ることしたいことをご本人のやり方でしていただけるようにしている。		
19	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・連絡を密にとりながら、ご家族の思いや関係性を配慮し関係を築くように努力している。		
20	(11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔よく行っていた場所・通っていた場所等へ通い劇場・公園・喫茶店等関係継続の支援に努めている。	家族との外出(買い物、食事等)・外泊や友人・知人の来訪、昔から通っていた場所(新開地劇場、喫茶店等)や菩提寺へのお参り等、今までの生活が永く継続できるよう支援している。	
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご家族にも確認しながら、日々の何気ない会話の中にニーズを見つけていただき支援していくように努力している。	入居者との日々の係わりの中(言動、仕草・表情等)や個別での会話(居室内・入浴中等)、センター方式の様式の活用により個々人の思い・意向を汲み取っている。キャッチできた情報は、申し送り、介護記録、毎週のカンファレンスにより共有している。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様本人関係に情報提供把握するよう努力している。		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録により共有把握するようにしている。		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族様と直接会えない場合は事前に連絡し、意見や希望をお聞きし、日々のケアでは個人記録に、「ケアプラン」という欄をつくり、日々のケアの中で気づいたことや発見したことプランに活かそうなことをすぐに記入できるようにしており、介護計画に活かしている	入居者の思い・意向、家族の要望等(直接会話若しくは書式により)に、職員・医療従事者等の意見を踏まえ、有用性の高い介護計画を作成している。入居者の現況と介護計画の整合性確認(モニタリング)は、ミーティングの中で実施している。	介護職員の観察力を高め、更なる本人本位の介護計画書の作成継続に期待をします。
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録の中でケアプランの項目を設け介護計画の見直しや立案に活かしている。		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別での外出、ご家族との外出の支援なども出来ることを伝え、よりご家族様との関わりが出来るよう努力している。		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	個別に必要な社会資源は提供できるように配慮している。		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様の希望を大切に、納得が得られてから受診している。	協力医(グループ法人の内科医)の往診(月2回)、歯科の訪問診療も受け入れ、医療面での支援を図っている。認知症専門医等への受診(通院)は、家族と協働している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の関わりの中で、些細な情報や気づきを確実に報告、連絡、相談をおこない、訪問看護の際助言してもらっている。		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した場合、出来るだけ細かく多くの情報を伝え、安心して早期に退院出来るように働きかけている。入院の間も定期的に病院と連絡をとり、利用者の状況を把握するように努めている	職員は、入院中の入居者の不安感を軽減するため面会に伺っている。医療機関の関係者とは、早期退院を前提に連携し、退院時には予後に不具合が生じないよう情報の提供を受けている。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、ご家族と十分な話し合いをおこない。事業所で「できること」「出来ないこと」を理解していただきながら終末期のあり方の方針を共有し支援に取り組んでいる。	「重度化・終末期」、そのような状況になった場合、ご本人の望むケア・「生」となるよう関係者(本人、家族、医療従事者、事業所等)が相談・検討しながら支援している。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを生かした事故の事例をあげ訓練を月/1回は行うようにしている。		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域での避難訓練などには極力参加し、年に2回行っている避難訓練には全職員が参加出来るように努めている。	消防・避難訓練(日中帯・夜間帯想定)は、年2回実施している(消防署の立会いあり)。小地域ネットワーク連絡等を通じ災害に関する話し合いを実施し、自治会との合同避難訓練も実施している。	

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会を通じて行っている。	入居者それぞれの現況並びに自尊心・羞恥心に配慮し、今までの暮らしで培ってきたもの(『強み』)が維持・継続できるよう支援している(生け花、園芸、連鶴折り、暗算等)。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自立支援のもと日々のケアに取り組んでいる。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎朝、朝の会を行ない一日の目標や希望を発表していただいている。職員はそれにそってケアしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	今まで使い慣れた物を持ちこんでいただく事により今まで行って身だしなみ、おしゃれが出来るように支援している。			
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	それぞれの利用者が役割をもち、食事に参加出来るよう支援している。	入居者の希望する献立、一緒に育てた菜園での野菜を職員と一緒に調理しながら『食』への関心が高まるよう図り、外食や出前(おかずの配食)、手作りおやつ、バイキング等も楽しみ事となっている。自家製の漬物(糠漬け)は利用者が手入れをしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の摂取量、栄養の状態を細かく把握できるように摂取表を工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行うとともに、訪問歯科にて口腔ケアの指導も受けている(毎週/1回)			

自己	者 第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握するために、細かな排泄細かなトイレ誘導を行なっている。	入居者個々人の現況及び排泄パターンやそのサイン(しぐさ・表情等)を把握し、トイレでの排泄が可能となるよう支援している。夜間帯は、ポータブルトイレ、パット交換で対応している方もおられる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	高齢者に多いとされる「便秘」に関しては勉強会を通して、日々スタッフにも働きかけている。水分量の把握から、飲食物の工夫、運動など個々に応じて予防に取り組んでいる		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の曜日は決めているが、その日の状況やタイミング、気分などを最優先し、お好きなきに入っているように毎日お風呂は沸かしている	毎日でも入浴ができるよう対応しているが、平均して週2～3回の入浴となっている。夜間浴や入浴剤の利用、シャンプー・リンスの個人使用、季節湯(ゆず湯等)等、入浴が楽しみ事となるよう仕掛けている。また外湯に行かれる方もおられる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活の習慣に合わせて、お昼までであっても休んでいただくこともあったり、夜間眠れない方については日中の活動内容などを検討したり足浴をしたりなど、少しでも気持ちよく眠れるような支援をしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬が起こらないようにすべての方の薬は分包してもらっている。薬の目的や副作用も勉強会などでも取り入れたり、服薬の変更や症状の変化などは細かく申し送りをしたり、記録に記載などしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションやボランティアの導入により支援している。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別の外出やご家族との外出支援している。	日常の散歩や買い物、菜園の草花への水遣り等、外気に触れる機会は多く設けている。外食や個別レクリエーションとしての外出、季節の遠足等、適度な刺激となる非日常も演出している。	個々の入居者のADL状態に応じた個別支援(外出)を今後も継続して頂くことに期待をします。

自己	者 第三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に出かけたときは必ず、ご本人様の財布でお金を払って頂くなど、お金を持って、使うことの大切さは理解できている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を希望される方は、ご家族様の方の了承をとってからではあるが、好きなときに電話を掛けていただいたり、電話が出来ない方などはスタッフと一緒に手紙やハガキを書いて送っている		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・生活のにおいを大切に、生活感のある空間作りに配慮している。壁にはその時期に合わせた利用者や職員が作成した壁画があり、季節を感じていただけるよう配慮している。	季節の草花が植えられている玄関周りや庭、畳敷き小上がりのあるリビング、季節飾りや行事写真が掲示されているフロア、憩いの場となる屋上、色々と活用できる1Fの交流スペース、複数での入浴も可能な浴室等、心地良く過ごせる共用空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングは一つかないが、ソファや棚でしきりをし、独りになれたり、気の合った方同士でくつろげる居場所を確保している		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される前にご家族様と相談し、ご本人様が昔から使っていた物や馴染みの物を持ってきていただき、入居前に生活していた空間を大切に、安心して過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた馴染みのもの(家具、テレビ、家族写真、人形等)を持ち込み居心地良く過ごせる居室となるよう支援している。家具等の設えや畳敷き等ADLの変化へも配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	高齢者に適した手すりを設置したり、トイレの場所がいつでも分かるように、ポスターを貼ったり、部屋の前には表札もあり混乱を少しでもなくし、自立した生活が送れるように工夫している		